

## 海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	住谷 隆輔
所属機関	順天堂大学医学部附属順天堂医院
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に従事した外国の研究機関名</li> <li>・参加した国際学会・会議名</li> </ul>	32nd Meeting of the European Society of Thoracic Surgeons (第32回欧州胸部外科学会学術集会)
渡航期間	自 2024年5月24日 至 2024年5月29日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容</li> <li>・国際学会・会議内容</li> </ul>	リンパ節転移を伴わない非小細胞肺癌 pII-III A 期における再発リスクの検討
研究成果 (要約: 800字)	
<p>本邦では術後病期 II から IIIA 期の非小細胞肺癌に対する術後補助化学療法は、メタ解析の結果(Pignon JP et al. J Clin Oncol. 2008)をもとに、プラチナ製剤を含む治療が推奨されています。しかし TNM 分類変更、それに伴う肺癌取り扱い規約の改定を経ている中、治療指針に変更はなされていません。そこで、本研究は 2009 年 1 月から 2018 年 10 月までに当院で肺葉切除以上が施行された IASLC 第 8 版におけるリンパ節転移のない pII-III A 期の症例 213 例中、術前後の化学療法導入例、縦隔リンパ節郭清未施行例、肺癌既往のある症例を除外した 112 例を対象に、再発リスクの同定を行いました。多変量解析を行ったところ、血管浸潤が独立再発リスク因子として同定されました(P=0.017)。続いて累積再発率、予後検討を行ったところ、非血管浸潤群で有意に 5 年累積再発率(37.5% vs 21.5%, p=0.0318)、5 年生存率(65.7% vs 46.2%, p=0.0022)が高いことが示されました。これまでに術後に補助療法の行われない Stage I 期の累積再発率は 20.2%と報告されており(Wang et al. BMC Cancer 2020)、本研究での非血管浸潤群はほぼ同等の結果であったことから、当該集団において、血管浸潤を認めない場合、患者さんとメリット・デメリットの共有を行い、術後補助化学療法の省略を検討してもよいことを本学会にて提唱しました。また、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会からの推薦により、食道癌、肺癌、肺移植、縦隔腫瘍などの胸部外科領域の疾患について、最新のトピック、治療方針等についての討論の場であるシンポジウム(postgraduate course)に Asia 代表として登壇しました。今回、貴財団より学会参加に際するご援助賜れましたこと、深謝申し上げます。</p>	